

CA Desktop Migration Manager

はじめに

12.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA 製品は、以下のとおりです。

- CA Advantage® Data Transport® (CA Data Transport)
- CA Asset Intelligence
- CA APM (CA Asset Portfolio Management)
- CA Business Intelligence
- CA Common Services™
- CA DMM (CA Desktop Migration Manager)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA MDM (CA Mobile Device Management)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Process Automation
- CA Service Desk Manager
- CA WorldView™

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: デSKTOP マイグレーションの管理	7
デスクトップ管理とマイグレーションのコスト	7
本書の目的	8
特有の機能	9
第 2 章: CA DMM のインストール	19
インストール オプション	20
CA DMM のインストール	21
インストールの削除または変更	24
第 3 章: DMM Director の使用	25
DMM Director Setup へようこそ	25
マイグレーションセットアップ	26
CA DMM へのアクセス	27
マイグレーションの種類および FIPS モードの選択	27
テンプレートの選択	29
DMM Template Editor	30
遅延マイグレーション	33
ソース ユーザ インターフェース	34
[デスティネーション ユーザ インターフェース]	34
構成のレビュー	35
構成完了	35
マイグレーションディレクトリ構造の概要	36
ソース マイグレーションの実行	38
作成した DNA ファイルの表示	38
DMM Explorer	39
DMM Director ログ	39
デスティネーション マシン	40
マイグレーション完了	40
ディスクからディスクのマイグレーションの実行	41
ドライブ マッピング情報	42
ディスクからディスクのマイグレーションプロセスのしくみ	43
ディスクからディスクのマイグレーションの実行	44

第 4 章: DMM Always Current Scheduler の使用 49

DMM ストレージタスクのスケジュール	50
スケジュール済みの DMM タスクの表示	51
ストレージから DNA を適用	52

付録 A: Software Delivery を使用した CA DMM のインストール 53

基本的な手順	54
パッケージの自動登録	54
ジョブの作成	55
パッケージの手動登録	55
SDRegister を使用した自動登録について	55
前提条件	56
コマンド	57

第 1 章: デスクトップ マイグレーションの管理

CA DMM は、CA Technologies が提供する包括的ソリューションです。オペレーティングシステムの設定、アプリケーションの設定、およびデータファイルをマイグレート、置換、復元します。これらのデータを総称して DNA と呼びます。

デスクトップ管理とマイグレーションのコスト

新しい PC を入手したり、オペレーティングシステム (OS) をアップグレードしたりしたことはあるでしょうか。もしあれば、ユーザ固有のデスクトップ環境を作り直すのがどれほど困難であるかわかりでしょう。数万台もの PC のアップグレードや拡張に必要な時間とコストを考えてみてください。

PC の交換やアップグレードを行った場合、エンドユーザの生産性を妨げないために、PC 固有の DNA、すなわちシステムやアプリケーションの設定、ネットワークやプリンタの設定、データファイルやフォルダ、電子メールのアドレス帳、環境設定などを保持する必要があります。この処理を手動で行うと、時間や手間がかかるうえ、間違いが発生しやすく、コストもかかるため、新しいテクノロジーの採用が大きく遅れることとなります。

PC の DNA を効率的に管理するには、効果的な IT 変更管理計画を設定します。この計画は、以下のような要素を含みます。

- ハードウェアのリフレッシュ
- PC の交換
- Windows ドメインから Active Directory への、デスクトップおよびラップトップユーザの移行
- Windows の導入

- OS のアップグレード
- データのマイグレーション
- 惨事復旧

これらは企業運営を妨げるイベントです。ハードウェアの取り外しや新しいオペレーティングシステムの導入には、IT 技術者やエンドユーザ、ヘルプデスクその他の作業時間を含む莫大なコストがかかります。PC の交換やアップグレード時のこれらのコストを最小限に抑えるには、ユーザの PC 固有の「DNA」を保持する必要があります。

この処理を手動で行おうとすると、時間や手間がかかるうえ、間違いが発生しやすく、コストもかかります。コンピュータが使用できない間ユーザは作業ができなくなり、コンピュータが戻っても IT 技術者が設定をやり直している間の生産性は失われます。手動でマイグレーションを行った後は、ヘルプデスクへの要求も劇的に増加します。その上、PC の DNA を効果的に管理する計画がないと、場合によってはコンピュータを一時重複してリースする必要があります。これらのコストによって、新しいテクノロジーの導入利益が大きく削られてしまいます。

CA DMM は、PC の特定のイベントに対する、効率的で費用対効果の高い、統制された変更管理プロセスを可能にするために開発されました。これにより、PC の総所有コストの削減や、技術者の生産性の向上、エンドユーザが作業できない時間の減少、ヘルプデスクへの要求の削減、および投資利益率（ROI）の向上が可能になります。

本書の目的

このマニュアルでは、CA DMM とその便利な機能の一部について説明します。このマニュアルを最後までお読みになることで、CA DMM の目的と、企業での活用方法を理解できます。

特有の機能

CA DMM には、以下の特殊な機能があります。

柔軟なマイグレーション方法

複雑なマイグレーションシナリオをサポートするためには柔軟性が不可欠です。CA DMM は、2 種類のシステムマイグレーション方法を実装した初のシステムマイグレーションソリューションです。

遅延マイグレーション

遅延マイグレーションは、2 つの手順で構成されます。手順 1 では、ソースシステム（古いコンピュータ）から DNA ファイルを作成し、ファイルをローカルコンピュータ、ネットワークサーバ、ネットワークアプライアンス、または Apache Web サーバに保存します。DNA ファイルには、各ユーザの PC の DNA が格納されます。手順 2 では、DNA ファイルをデスティネーションシステム（新しいコンピュータまたはリフレッシュしたコンピュータ）に適用します。適用作業はいつでも行うことができます。セキュリティが求められる環境では、DNA ファイルをパスワードで保護できます。



DNA はネットワークドライブだけでなく、CD-ROM、DVD、Zip ドライブなどのリムーバブルメディアにも保存できます。



リアルタイムマイグレーション

リアルタイムマイグレーションでは、中間ストレージを使用せずに、ネットワーク経由でPCのDNAをソースシステムからデスティネーションシステムに移動します。セキュリティが求められる環境では、ソースシステムをパスワードで保護できます。CA DMMでは、IPv4環境とIPv6環境の両方でリアルタイムマイグレーションがサポートされます。



マイグレーション時のユーザ管理

複数のユーザが同じコンピュータを共有している場合は、ユーザのPCのDNAを新しいコンピュータに適切にマイグレートする必要があります。CA DMMは、ユーザプロファイルのマイグレーション、WindowsドメインからActive Directoryへのマイグレーション、アカウントの作成、ユーザのリダイレクト、セキュリティの確保などの機能を提供します。

現在のユーザおよび複数のユーザのマイグレーション

CA DMMでは、指定したPCに現在ログオンしているユーザや複数のユーザをマイグレートできます。現在のユーザのマイグレーションを実行する場合、ソースマシンからマイグレートされるすべての設定は、現在ログインしているユーザのものが使用されます。現在のユーザのマイグレーション時に、ユーザプロファイル設定はマイグレートされません。複数のユーザをマイグレートする場合は、各ユーザの設定およびデータと共に、コンピュータに存在する一部またはすべてのユーザプロファイルを選択してマイグレートできます。

パスワードとセキュリティ

CA DMM では、複数のユーザをマイグレートする場合、デスクトップマシンに新規アカウントが作成されます。ユーザパスワードには、3種類のオプションがあります。現在のパスワードを保持するか、定義したルールに従ってランダムにパスワードを生成するか、マイグレーションが完了してユーザが新しいシステムにログインしたときにパスワードを設定し直すように指示することができます。CA DMM は、ユーザグループメンバシップと NTFS（ファイルおよびフォルダ）セキュリティのマイグレーションオプションを完全にサポートしています。

Active Directory へのユーザのマイグレート

CA DMM は、ユーザプロファイルを Windows ドメインシステムから Active Directory (AD) にマイグレートします。管理者は、デスクトップマイグレーションと AD マイグレーションの2つの処理を組み合わせて、簡単なシングルステップの処理を作成できます。CA DMM は、ユーザを AD にリダイレクトし、新しい命名規則に従って名前を変更して、ファイル/フォルダとグループセキュリティを同時にマイグレートします。アクティブなユーザのみをマイグレートする機能を利用することで、使用しないユーザを除外して、ディレクトリシステムを効果的にクリーンアップできます。Windows ドメインから Windows ドメイン、または AD から AD へのマイグレーションも完全にサポートしています。

ユーザアカウントの作成

CA DMM は、ユーザが別のパスにリダイレクトされたときに、新しいユーザアカウントを自動的にシステムに作成します。アカウントは、ソースおよびデスクトップマシンの OS にかかわらず、ユーザの名前を変更したり、ユーザを別のドメインに移動した場合に作成されます。

動的なユーザアカウントの選択

コマンドラインインターフェースを使用することで、自動マイグレーション中にユーザを動的に選択できます。CA DMM では、ワイルドカードや明示的な追加/除外ルールの使用、およびアカウントに最後にアクセスした日付範囲の定義ができます。これらの条件を設定することで、使用しないユーザをマイグレーションから除外できます。

設定とデータのマイグレート

CA DMM では、ユーザがカスタマイズしたさまざまな設定のマイグレートや、高度なデータ収集機能を使用したマイグレートを実行できます。これにより、システムを再構成する手間が省けるため、ヘルプデスクへの問い合わせを最小限に抑えることができます。

デスクトップ、システム、およびアプリケーションの設定

システム設定とは、PC のオペレーティング システムで使用されるあらゆる構成情報です。壁紙、キーボード、マウス ポインタ、スクリーンセーバ、ネットワーク ID、プリンタなどの設定があります。CA DMM では、160 以上のアプリケーションの同じバージョンまたは異なるバージョンのカスタム設定をマイグレートできます。ユーザは、ユーザ辞書、マクロ、表示プロパティなどを作成し直す必要がないので、生産性を落とさずに作業を継続できます。

データの追加/除外フィルタ、およびフォルダの除外フィルタ

CA DMM では、フィルタ機能を使用して、ソース システムからファイルとフォルダをマイグレートできます。追加フィルタまたは除外フィルタでは、ファイル名、場所、変更日時と作成日時、サイズ、およびファイルの種類を条件として設定できます。また、特定のファイルとフォルダを任意のフィルタ処理またはすべてのフィルタ処理から除外することもできます。

ファイルのリダイレクト

ファイルのリダイレクトを使用すると、任意の場所にあるソース マシンのすべてのデータをマイグレーション処理で取得して、ユーザのマイドキュメント フォルダなどの定義済みの場所に保存できます。リダイレクトでは、データ フィルタと同じ機能を利用して、データのディレクトリ構造をクリーンアップできます。

無制限のファイル サイズ

マイグレーションのニーズによっては、DNA ファイルのサイズが 4 ギガバイト (GB) を超える場合があります。CA DMM では、ネットワークの制限にかかわらず、大容量のファイルを転送できます。DNA ファイルは、ネットワーク アプライアンスや Apache Web サーバなど、ネットワーク上に保存できます。さらに、CD-ROM や Zip ディスク、その他のリムーバブルメディアに DNA ファイルを保存することもできます。

マイグレーション後の管理

豊富なログ機能により、マイグレーションの結果を追跡したり、企業全体のマイグレーション処理の進行状況を監視できます。マイグレーション前の状態に戻したり、詳細なログを参照して有効なマイグレーションシナリオを作成できます。CA DMM では、以下のようなログを作成できます。

- イベント ログには、マイグレーション中に発生したイベントが記録されます。CA DMM では、再利用可能な XML 形式でのイベント ログがサポートされています。CA DMM では、指定したセキュリティ レベルに応じてマイグレーション中に生成されたイベントに関する情報が含まれた XML ベースのファイルが作成されます。この XML ファイルによって情報に簡単にアクセスでき、すべての種類のアプリケーションやデバイスが情報を容易に使用、保存、転送、および表示できるようになります。簡単に情報を抽出および解析して必要な操作をしてから、マイグレーション処理に進むことができます。XML イベント ログ ファイルの名前と場所は [イベント ログ] 領域に指定したものが使用され、ファイルの拡張子は logx です。XML 形式は、テキスト形式に追加されたものです。
- アンドゥ ログには、ソース システムからデスティネーション システムにマイグレートされたすべての項目が記録されます。マイグレートする項目を選択して元の状態に戻したり、PC をマイグレーション前の状態に戻すことができます。
- マニフェスト ログには、マイグレーションの詳細が記録されます。マイグレーションの結果をプログラムで検証したり、データベースにインポートしてさらに高度な処理やデータ マイニングを行うことができます。

リダイレクト

ユーザ、ドライブ、データ ファイルおよびフォルダ、アプリケーション設定を、ソース システムの保存場所からデスティネーションの新しい場所にリダイレクトできます。ドライブ構成を変更して整理し、アプリケーション設定を新しい場所にリダイレクトすることで、デスティネーション システムでユーザのデータ ファイルとフォルダを効率的に管理できます。

Windows Mail サポート

CA DMM では、Windows Vista 上の Windows Mail がサポートされています。Windows Vista ソース コンピュータから Windows Vista デスティネーション コンピュータに Windows Mail 設定をマイグレートできます。

Windows Mail スクリプトを使用すると、Windows XP か Windows 2000 ソース コンピュータから Windows Vista デスティネーション コンピュータに MS Outlook Express 設定をマイグレートできます。これにより、Windows XP または Windows 2000 からマイグレートしつつ、Windows ビスタ上で Windows Mail がサポートされます。

完全な自動マイグレーション

IT コストを節約するには、マイグレーション処理を自動化する必要があります。企業全体に渡る大規模なマイグレーションプロジェクトでは、より大きな処理への統合が必要になる場合があります。こうした機能をサポートするために、オプション ファイルやテンプレートなどの共有構成リソースを使用して、CA DMM を 1 つの場所から実行できます。マイグレーション処理で各 PC に固有の環境変数を使用することで、同じような PC の DNA を区別できます。マイグレーションが完了したら、リターンコードを使用して、より大きなプロセスの次のステップに進むことができます。さらに、すべての自動処理は「Quiet モード」で実行できます。この場合、エンドユーザには何も表示されません。

コマンドライン インターフェース

CA DMM のコマンドラインを使用することで、企業全体に対して既存のソフトウェアを維持しながら大規模なマイグレーション プロセスを自動で実行することが可能です。

環境変数

CA DMM の提供する環境変数は、コマンドラインやユーザ インターフェースで使用できます。これらの変数は、DMM ファイルやログ ファイルに固有の名前を付けたり、マイグレーションに使用する適切な DNA テンプレート ファイルを指定したり、マイグレートするユーザを指定する場合などに使用できます。

共有構成リソース

CA DMM は、従来の方法でインストールする必要はありません。ネットワークの共有フォルダやローカル ドライブから実行したり、インストール CD から直接実行できます。製品をローカルにインストールしなくても、あらゆる種類のマイグレーション（リアルタイム、遅延、またはリムーバブルメディア）を実行できます。製品に含まれているリソース（実行可能ファイル、テンプレート ファイル、構成ファイル、および DNA ファイル）を 1 つの場所に置いて、複数のシステムから同時にアクセスできます。

DMM オプション ファイル

DMM オプション ファイルは、製品の構成をカスタマイズできる XML ベースのファイルです。構成をカスタマイズすることで、本製品を任意の環境で効率的に実行できます。

リターンコード

CA DMM は、マイグレーションの完了時にコードを返します。取得したリターンコードを使用して、プロセス全体での次のステップを系統的に判断できます。

自動マイグレーションにおけるユーザ操作の制限

ウィザードのユーザ インターフェースをカスタマイズして、技術者やエンド ユーザがアクセスできるページや機能を制限できます。自動マイグレーション処理を完全に制御し、技術者やエンド ユーザがマイグレーション時に特定のファイルやフォルダなどの項目を選択するように柔軟に設定できます。

復旧と復元

DNA ファイルを変更するたびに、変更内容がリビジョンとして保存されます。DNA ファイルの以前のリビジョンに戻す必要が生じた場合は、いつでも戻すことができます。さらに、**Always Current Scheduler** を使用すると、通常使用する PC の DNA のリビジョンを安全な場所に確実に保存できます。

ファイルとフォルダの選択適用

デスティネーションに DNA ファイルを適用するときに、[ファイルとフォルダ] ツリーから必要なファイルとフォルダのみを選択できます。ソースで選択したファイルとフォルダに対し、[ファイルとフォルダ] ツリー（適用側）で選択項目をカスタマイズできます。これにより、特定のユーザ グループの要件に当てはまるファイルとフォルダのみを論理的に分離および適用できます。[ファイルとフォルダ] ツリー全体をデスティネーションに適用する必要はありません。

また、要件に応じて、[ファイルとフォルダの選択的適用を有効にする] オプションを使用することで、選択的適用を有効または無効にすることもできます。たとえば、マイグレートするファイルが多く、マイグレーションをより迅速に行いたい場合は、選択的適用の機能を無効にしてマイグレーションのパフォーマンスを改善できます。

開いているファイルのマイグレーション

CA DMM では、開いていてロックされているファイルをマイグレートできます。マイグレーションを開始する前に対応するアプリケーションを閉じる必要はありません。その結果、作業の中断が発生せず、マイグレーションの実行中でもファイルを使用できます。開いていてロックされているファイルのマイグレーションは、遅延マイグレーションモードおよびリアルタイムマイグレーションモードを使用して実行できます。遅延マイグレーションモードでは、開いていてロック中のファイルを .dna ファイル（または自己解凍ファイル）にバックアップします。リアルタイムマイグレーションモードでは、開いていてロック中のファイルをソースコンピュータからデスティネーションコンピュータに直接マイグレートします。

Migration Toolkit

CA DMM には、時間の節約に役立つ柔軟な自動化ツールのセットが用意されています。Migration Toolkit を使用すると、新しい OS の導入、PC ソフトウェア/ハードウェアのリフレッシュ、障害復旧のシナリオなどのプロセスの開発と調整に要する時間を大幅に短縮できます。

DMM Director

大規模な企業のマイグレーションに対応した最高レベルのコマンドと制御機能を提供し、マイグレーション処理を容易にします。ウィザードに表示される質問に答えるだけで、マイグレーションをスムーズに実行するために必要な要素が作成されるので、マイグレーション処理を簡単に自動化できます。さらに、DMM Director では、プロセス全体が自動的にログに記録されます。

DMM Template Editor

カスタムテンプレートを作成して、マイグレーション処理の時間を短縮したり、制御性を向上できます。このテンプレートは、あらゆるユーザ、部門、または組織向けにカスタマイズできます。DMM Template Editor では、あらゆるユーザ環境に合わせてマイグレーションをカスタマイズできます。

DMM Explorer

DNA ファイルに格納されている個々のファイル、フォルダ、および設定のリビジョンなど、DNA ファイルの内容を簡単に確認できます。DMM Explorer から、個々のファイル、フォルダ、または設定を直接適用することもできます。管理者は、自動処理の効率化、分析、参照、問題解決、カタログ化、および調整ができます。

DMM Options Editor

XML ファイル形式に関する知識や理解がなくても、DMM オプションファイルを更新および設定できます。

DMM Studio

社内アプリケーションやカスタム アプリケーションに簡単にマイグレートできるスクリプトを作成できます。特定の状況やマイグレーションニーズに合わせてスクリプトを作成できます。

CA Technologies Merger and Acquisition ツール

ドメイン情報、ユーザプロフィール、アプリケーション設定、データなどのリソースをそのままの状態でもイグレートできます。既存の設定、データ、およびその他のリソースは変更されませんが、ユーザ ID とコンピュータ名が新規作成されます。

第 2 章: CA DMM のインストール

これ以降のトピックでは、CA DMM のインストール方法と削除方法について説明します。サポートしているオペレーティング システムとシステム要件については、製品メディアに収録されているリリース ノートを参照してください。

インストール オプション

インストールでは、CA DMM と Migration Toolkit をインストールできます。

以下の3つのタイプのインストールを実行できます。

標準

標準インストールでは、以下のものがインストールされます。

- CA DMM のプログラム ファイル
- DMM Director のプログラム ファイル
- DMM Always Current Scheduler
- Migration Toolkit :
 - DMM Template Editor
 - DMM Explorer
 - DMM Options Editor
 - DMM Studio
- DMM Deployment Setup
- Merger and Acquisition
- Web 更新
- スクリプト
- ブックシェルフ

コンパクト

コンパクトインストールでは、以下のものがインストールされます。

- CA DMM のプログラム ファイル
- スクリプト
- Web 更新

カスタム

カスタムインストールでは、インストールするコンポーネントの組み合わせ、およびそれらのインストール場所を選択できます。カスタムインストールのデフォルト設定は、上記の標準インストールに含まれているすべてのコンポーネントです。

CA DMM のインストール

製品をインストールするには、CA DMM インストール ウィザードを使用します。

CA DMM をインストールするには、以下の手順に従います。

注: インストールを開始する前に、必ず前のバージョンの製品をアンインストールしてください。

1. CD-ROM ドライブに CD を挿入します。

インストール ウィザードが起動します。

注: インストール ウィザードが起動しない場合は、CD のルートディレクトリにある DDNAAutorun.exe をダブルクリックします。または、[スタート] - [ファイル名を指定して実行] を選択して、以下のコマンドを入力します。

[cd-rom drive]¥DDNAAutorun.exe

2. [Install Desktop Migration Manager] をクリックします。

[Choose Language] ページが表示されます。

3. ドロップダウンリストからインストールの言語を選択して、[次へ] をクリックします。

初期画面ページが表示されます。

4. [次へ] をクリックします。

[使用許諾契約書] ページが表示されます。

5. スクロールバーを使用して契約書を最後まで読み、[同意する] をクリックします。

ユーザ名および会社名の入力を求める [ユーザ情報] ページが表示されます。

6. 名前と会社名を入力して、[次へ] をクリックします。

セットアップタイプの選択を求める [セットアップタイプ] ページが表示されます。

7. セットアップのタイプを選択し、[次へ] をクリックします。

以下の3つのオプションがあります。

- 標準
- コンパクト

■ カスタム

注: カスタム インストールを選択した場合は、インストールするコンポーネントを選択する必要があります。インストーラでは各コンポーネントの説明が表示されるため、これを参照してインストールするコンポーネントを選択できます。インストールするコンポーネントを選択して、[次へ] をクリックします。

CA DMM のインストール場所を変更するかどうかを尋ねる [インストール場所] ページが表示されます。デフォルトのインストール先は、**C:\Program Files\CA\Desktop Migration Manager** です。

8. [変更] をクリックして別の場所を選択するか、[次へ] をクリックします。

[Ready to Install the Program] ページが表示され、インストールを開始するように要求されます。

9. CA DMM の FIPS モードを選択します。

FIPS のみ

FIPS 準拠の暗号化のみが許可されることを指定します。このモードは下位互換ではないため、CA DMM の旧リリースを使用して作成された DNA ファイルにはアクセスできません。

FIPS 推奨

FIPS 準拠の暗号化が推奨されることを指定します。このモードは下位互換であるため、CA DMM の旧リリースを使用して作成された DNA ファイルにアクセスできます。ただし、CA DMM の動作モードとして FIPS 推奨モードを指定してインストールした場合は、デフォルトによって Client Automation と同じ FIPS モードで動作します。たとえば、FIPS 推奨モードが選択されている場合でも、Client Automation が FIPS のみモードで動作していれば、CA DMM も FIPS のみモードで動作します。コマンドラインオプションを使用すると、CA DMM が Client Automation の FIPS モードを無視するように設定できます。詳細については、「リファレンスガイド」を参照してください。

10. [インストール] をクリックします。

インストールの進捗状況を示す [インストールの進捗状況] ページが表示されます。CA DMM と、インストール対象として選択した Migration Toolkit のツールが指定したとおりにインストールされます。

CA DMM のインストールが完了すると、readme ファイルの確認、CA DMM の実行、またはデスクトップへの CA DMM ショートカットの追加など、実行可能なほかのタスクを指定するためのページが表示されます。

11. 1 つまたは複数のオプションを選択して、[次へ] をクリックします。

インストールが完了します。

12. [完了] をクリックします。

インストール ウィザードが閉じ、[Readme を表示] などの選択したオプションが実行されます。

インストールの削除または変更

コンポーネントの追加や削除など、CA DMM のインストールを変更する場合、または CA DMM をシステムから削除する場合は、以下の手順に従います。

1. Windows の [コントロールパネル] を開きます。
2. [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。 [CA DMM] を選択して [変更と削除] をクリックします。

インストール ウィザードが起動します。

以下のいずれかのオプションを選択できます。

[変更]

新しいコンポーネントの追加（カスタム インストールを行った場合）、または選択したコンポーネントの削除を実行します。

[修復]

初期インストールと同じ場所にすべてのコンポーネントをインストールして、現在のインストールを修復します。

[削除]

インストールされているすべての CA DMM コンポーネントを、システムから削除します。

3. 選択を行い、 [次へ] をクリックします。
ウィザードに進捗状況が表示されます。
4. [メンテナンスの完了] ウィンドウが表示されたら、 [完了] をクリックします。

アンインストールプロセスが示されます。

第 3 章: DMM Director の使用

この章では、Director セットアップ ウィザード、および組織内の複数のワークステーションで同時にアクセスおよび使用可能な遅延マイグレーションの処理を自動化する方法について説明します。

DMM Director は、CA DMM Migration Toolkit のコンポーネントです。DMM Director には、組織の規模に合わせてマイグレーションプロセスを迅速に構成できる柔軟性と強力な機能があります。ソフトウェアのインストール後、[スタート] - [プログラム] - [CA] - [Desktop Migration Manager] - [DMM Director] を選択して、DMM Director を起動できます。

DMM Director Setup へようこそ

DMM Director ウィザードの指示に従って、マイグレーションプロセスを簡単に作成することができます。作成したマイグレーション処理はすぐに使用できます。マイグレーションプロセスの基本設定をカスタマイズして DMM Director のすべての機能を活用すると、必要なあらゆる種類のマイグレーションに対応できます。

ウィザードの次のページに進むには、[次へ] をクリックします。

マイグレーション セットアップ

マイグレーションを自動化するには、ネットワーク上のマイグレーションディレクトリとデータディレクトリの場所を定義する必要があります。これら2つのディレクトリは、同一のサーバまたはネットワーク上の個別のサーバに指定することができます。

マイグレーションセットアップを指定するには、以下の手順に従います。

1. [マイグレーションディレクトリ] フィールドに、マイグレーションディレクトリのファイルパスと名前を入力します。

DMM Director は、構成した自動マイグレーションを実行するために必要なすべてのファイルをマイグレーションディレクトリに自動的にコピーまたは作成します。

2. [データディレクトリ] フィールドに、データディレクトリのファイルパスと名前を入力します。

DMM Director は、DMM Director を使用して初めてマイグレーションを実行したときに、DNA ファイルと関連ログ ファイルを格納するためのディレクトリとフォルダの構造を自動的に作成します。

注: すべてのコンピュータがマイグレーションディレクトリとデータディレクトリにアクセスできることを確認してください。マイグレーション中にアクセスに関する問題が発生しないように、マップされたドライブ文字ではなく、UNC パスを使用することをお勧めします。

3. [次へ] をクリックして次のページに進みます。

CA DMM へのアクセス

CA DMM へのアクセス方法 (サーバ上のマイグレーションディレクトリからアクセスして実行するか、または各ワークステーションからアクセスするか) を定義する必要があります。

CA DMM にアクセスするには、以下の手順に従います。

1. 以下のオプションから選択します。

[マイグレーション ディレクトリから]

[マイグレーションセットアップ] ページに入力したパスを、マイグレーション中の CA DMM の実行元の場所として設定します。

Director セットアップによって、DNA の実行可能ファイルおよび関連するすべてのファイルがマイグレーションディレクトリに自動的にコピーされます。

[ワークステーションから]

AutoDNA がワークステーションで起動されると、マイグレーションを開始する前に、DMM Director によって CA DMM のサイレントインストールが自動的に実行されます。

2. [次へ] をクリックして次のページに進みます。

マイグレーションの種類および FIPS モードの選択

実行するマイグレーションの種類を定義する必要があります。Director セットアップでは、この選択に基づいて遅延マイグレーションとリアルタイムマイグレーションのいずれかの手順が示されます。これに従うことで、マイグレーション処理の自動化を設定できます。ここでは、遅延マイグレーションを自動化する手順について説明します。

また、使用する FIPS モードを指定する方法についても説明します。

マイグレーションの種類および FIPS モードを選択する方法

1. 以下のオプションから選択します。

DNA ファイルを使用した遅延マイグレーション

DNA ファイルを作成してデータディレクトリに格納します。

注: この例では、[DNA ファイルを使用した遅延マイグレーション] オプションを選択します。

[ネットワーク経由のリアルタイム マイグレーション]

リアルタイム マイグレーションの対象となるソース ワークステーションとデスティネーション ワークステーションを定義します。

2. 適切な FIPS モードを選択します。

FIPS 推奨

FIPS 準拠の暗号化が推奨されることを指定します。このモードは下位互換であるため、CA DMM の旧リリースを使用して作成されたパスワード保護 DNA ファイルにアクセスできます。ただし、コンピュータに Client Automation がインストールされている場合、CA DMM は Client Automation と同じ FIPS モードで動作します。たとえば、FIPS 推奨モードが選択されている場合でも、Client Automation が FIPS のみモードで動作していれば、CA DMM も FIPS のみモードで動作します。コマンドライン オプションを使用すると、CA DMM が Client Automation の FIPS モードを無視するように設定できます。詳細については、「リファレンス ガイド」を参照してください。

FIPS のみ

FIPS 準拠の暗号化のみが許可されることを指定します。このモードは下位互換ではないため、CA DMM の旧リリースを使用して作成されたパスワード保護 DNA ファイルにはアクセスできません。

3. [次へ] をクリックして次のページに進みます。

テンプレートの選択

マイグレーションに使用するテンプレート ファイルを指定する必要があります。DMM Director で用意されているデフォルトのテンプレート ファイルを選択するか、独自のテンプレート ファイルを作成できます。

注: デフォルトのテンプレートには、デスクトップの設定として背景、キーボード、マウス、スクリーンセーバ、マイドキュメントの設定が含まれます。アプリケーションの設定としては Internet Explorer、Microsoft Access、Microsoft Excel、Microsoft Office ショートカット バー、Microsoft PowerPoint、Microsoft Project、Microsoft Word、Norton Anti-Virus、WinZip の設定が含まれます。

このページを完了するには、以下の手順に従います。

1. テンプレートをマイグレーションに関連付ける方法を選択します。

[ユーザがテンプレートを選択する]

マイグレーションを開始する前にテンプレートを選択できます。マイグレーション時に選択できるように、複数のテンプレートを作成してディレクトリに配置しておくこともできます。

[デフォルトのテンプレートを使用する]

デフォルトのテンプレートを使用できます。デフォルトのテンプレートは、マイグレーションのニーズに合わせて変更することもできます。DMM Director により、指定したテンプレートが自動的にマイグレーションディレクトリにコピーされます。

[以下のテンプレートを使用する]

テンプレートを作成して保存し、その後 DMM Director に戻ってパスとテンプレート名を入力できます。

注: たとえば、[以下のテンプレートを使用する] オプションを選択します。

2. この例で使用するテンプレートを作成して保存するには、[Template Editor の起動] をクリックします。

DMM Template Editor が開きます。

DMM Template Editor

DMM Template Editor は、マイグレーション設定を簡単に再利用できるようにする強力なエンタープライズレベルのツールです。マイグレーションテンプレートは「検出する必要がない」ため、マイグレートするコンピュータを操作しなくても、マイグレーションテンプレートを作成できます。

テンプレートを使用すると、マイグレーションを社内の別の部署、または特定の個人やワークグループ用にカスタマイズして自動化できます。指定したアプリケーションおよび設定がマイグレーションを使用するシステム上に存在しない場合でも、マイグレーションの選択項目をテンプレートに追加することができます。

ソース マシンのマイグレーション、および作成した DNA ファイル内の DNA をデスティネーション マシンに適用する方法を、1 つのテンプレート ファイルで定義することができます。

この例のテンプレートを作成するには、以下の手順に従います。

1. このテンプレートを使用して作成した DNA ファイルのプロパティ セクションに、タイトルと説明を追加します。
2. [ユーザ] ブランチをクリックし、マイグレートするユーザを定義します。

注: デフォルトでは、現在のユーザの設定が使用されます。現在のユーザのみをマイグレートする場合は、ユーザを選択する必要はありません。ドメイン、Active Directory、またはローカルユーザをマイグレートする場合は、ユーザのカテゴリを選択し、カテゴリを展開して、マイグレートするユーザを定義することができます。

ユーザをリダイレクトする場合は、[リダイレクト] タブをクリックします。ユーザ ツリーを展開し、[デスティネーション] 列をダブルクリックして、ユーザのデスティネーションを定義することができます。

3. ツリー内の [システム] ブランチをクリックし、マイグレーション用の設定を表示します。マイグレートするシステム設定を選択します。
4. ツリー内の [アプリケーション] ブランチをクリックし、マイグレーション用のアプリケーション設定を表示します。マイグレートするアプリケーション設定を選択します。

注: いずれかのアプリケーションをリダイレクトする場合は、[リダイレクト] タブをクリックし、[デスティネーション] 列をダブルクリックして、アプリケーションの設定のデスティネーションを定義します。

5. ツリー内の [ファイル] ブランチをクリックし、ローカルファイルシステムを表示します。マイグレートするファイルを選択します。マイドキュメントのマイグレートを選択した場合は、オペレーティングシステムに関係なく、CA DMM によって、ユーザのマイドキュメント ディレクトリが選択されます。

注: いずれかのファイルまたはフォルダをリダイレクトする場合は、[リダイレクト] タブをクリックし、[デスティネーション] 列をダブルクリックして、ファイルとフォルダのデスティネーションを定義します。

この例では、ファイルとフォルダをデスティネーションマシン上の 1 つの場所にリダイレクトすることができます。リダイレクト左記のパスには、環境変数および DMM 変数を使用できます。ファイルのリダイレクト方法の詳細については、DMM Template Editor のオンラインヘルプを参照してください。

6. ツリー内の [フィルタ] ブランチをクリックし、データ フィルタを定義します。マイグレーションに使用するデータ フィルタを定義します。

注: フィルタをリダイレクトする場合は、[リダイレクト] タブをクリックし、[次のフォルダにリダイレクトする] チェック ボックスをオンにします。フィルタの結果をリダイレクトするパスを入力します。

7. ツリー内の [ドライブのデスティネーション] ブランチをクリックし、マイグレーションのドライブ デスティネーションを定義します。

たとえば、古いシステムのハードディスク ドライブが C:¥ で、新しいシステムのハードディスク ドライブが D:¥ の場合があります。この場合、ドライブをリダイレクトする必要があります。ドライブをリダイレクトするには、[デスティネーション] 列をダブルクリックし、ドライブのデスティネーションを定義します。

8. [保存] ツールバー ボタンをクリックして、テンプレート ファイルを保存します。

[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。

9. デフォルトの場所 (C:¥My Documents) とファイル名を使用する場合は、[保存] をクリックします。

10. DMM Template Editor を閉じます。

Director セットアップの [テンプレートの選択] ページが表示されます。

11. [参照] をクリックして、作成したテンプレートを選択します。

12. [次へ] をクリックします。

遅延マイグレーション

[マイグレーションの種類] ページで遅延マイグレーションを選択すると、[遅延マイグレーション] ページが表示されます。各マイグレーションの DNA ファイルおよびログが保存されるマイグレーションフォルダごとに命名方法を定義する必要があります。デスティネーションワークステーションに適用する正しい DNA ファイルの識別方法も定義できます。

このページを完了するには、以下の手順に従います。

1. [格納] グループ ボックスの [コンピュータ名を使用してフォルダを作成する] を選択します。

[格納] グループ ボックスでは、DNA ファイルの命名方法、およびデータ ディレクトリへの格納時の DNA ファイルの保存方法を指定します。この例では、DMM Director によって、データ ディレクトリにコンピュータ名の付いたフォルダが作成され、DNA ファイルが格納されます。

2. [適用] グループ ボックスの [[格納] の選択に応じて、コンピュータ名またはユーザ名を使用してフォルダを選択する] を選択します。

[適用] グループ ボックスでは、データ ディレクトリからの DNA ファイルの取得方法、およびデスティネーションマシンへの DNA ファイルの適用方法を指定します。この例では、DMM Director によって、コンピュータ名またはユーザ名に基づいて、データ ディレクトリから DNA ファイルが自動的に取得されます。

3. [次へ] をクリックします。

ソース ユーザ インターフェース

[マイグレーションの種類] ページで遅延マイグレーションを選択すると、[ソース ユーザ インターフェース] ページが表示されます。CA DMM ウィザードのインターフェースをカスタマイズすることで、マイグレーション中にユーザが実行できる操作をカスタマイズできます。これによりマイグレーションのセキュリティが向上し、エンドユーザによるマイグレーション処理が容易になります。

ソース システムのユーザ インターフェースをカスタマイズするには、以下の手順に従います。

1. マイグレーション中にユーザが実行できる操作を選択します。この例では、デフォルトで[マイグレーション ステータス]のみ表示します。
2. [次へ] をクリックします。

[デスティネーション ユーザ インターフェース]

[デスティネーション ユーザ インターフェース] ページは、[マイグレーションの種類] ページで遅延マイグレーションを選択した場合に表示されます。CA DMM ウィザードのインターフェースをカスタマイズすることで、マイグレーション中にユーザが実行できる操作をカスタマイズできます。ウィザードをカスタマイズすると、マイグレーションのセキュリティが向上し、エンドユーザによるマイグレーション処理が容易になります。

デスティネーション システムのユーザ インターフェースをカスタマイズするには、以下の手順に従います。

1. マイグレーション中にユーザが実行できる操作を選択します。この例では、[マイグレーション ステータス] ページはデフォルトのままとし、[ログ結果] ページを選択します。
2. [次へ] をクリックします。

構成のレビュー

[構成のレビュー] ページでは、自動マイグレーション用に構成したすべてのオプションを検証してレビューできます。このページでエラーや矛盾が見つかった場合、前の段階に戻って必要な変更を行い、DMM Director が自動マイグレーション処理を作成する前に再確認できます。

選択内容をレビューし、[確認] をクリックします。

指定した構成内容に従って、Director セットアップが必要なすべてのフォルダとファイルを検索し、マイグレーションディレクトリにコピーまたは作成します。この処理の進行中は、ステータス ダイアログ ボックスが表示されます。

構成完了

[構成完了] ページは、DMM Director で、ユーザが指定したマイグレーションディレクトリの作成が完了したときに表示されます。[構成完了] ページには、自動マイグレーションを実行するために次に行う手順が記載されたレポートが表示されます。

Director セットアップにより、指定したパスに Director Migration フォルダが作成されます。このディレクトリには、選択したオプションに応じたフォルダやファイルが保存されています。

[完了] をクリックして、DMM Director Setup を終了します。

マイグレーション ディレクトリ構造の概要

Director セットアップにより、指定したパスにマイグレーションディレクトリが自動的に作成されます。マイグレーションディレクトリのフォルダには、**Director Migration** という名前が付けられます。

Director セットアップにより、**Director Migration** フォルダに以下のファイルがコピーまたは作成されます。

ソースの自動実行

このショートカットは、マイグレーションディレクトリからアクセスするか、ソースワークステーションにコピーして使用します。このショートカットは、構成済みのマイグレーションを実行するためにソースマイグレーションファイルと **AutoDNA.exe** にアクセスします。以下のコマンドラインが実行されます。

```
"<マイグレーション ディレクトリへのパス>%DirectorMigration%ddnarun%AutoDNA.exe" "<マイグレーション ディレクトリへのパス>%DirectorMigration%Source%DirectorSource.dmx"
```

必要に応じて他のコマンドラインパラメータを追加することで、マイグレーションをカスタマイズできます。

デスティネーションの自動実行

このショートカットは、マイグレーションディレクトリからアクセスするか、デスティネーションワークステーションにコピーして使用します。このショートカットは、構成済みのマイグレーションを実行するためにデスティネーションマイグレーションファイルと **AutoDNA.exe** にアクセスします。以下のコマンドラインが実行されます。

```
"<マイグレーション ディレクトリへのパス>%DirectorMigration%ddnarun%AutoDNA.exe" "<マイグレーション ディレクトリへのパス>%DirectorMigration%Destination%DirectorDestination.dmx"
```

必要に応じて他のコマンドラインパラメータを追加することで、マイグレーションをカスタマイズできます。

テンプレート ファイル

マイグレーション時に使用するよう構成されたテンプレートが、元の場所から **DirectorMigration** フォルダにコピーされます。

以下のフォルダが **DirectorMigration** フォルダにコピーまたは作成されます。

Setup フォルダ

このフォルダには CA DMM のインストールファイルが含まれており、マイグレーション ディレクトリにコピーされます。マイグレーションの前に CA DMM または何らかのコンポーネントをワークステーションにインストールする必要がある場合に使用されます。

ddnarun フォルダ

このフォルダには CA DMM の実行可能ファイルとサポートファイルが入っており、マイグレーション ディレクトリにコピーされます。マイグレーション ディレクトリから CA DMM にアクセスする場合に使用されます。このフォルダには AutoDNA.exe も含まれています。このフォルダには AutoDNA.exe も含まれています。この実行可能ファイルにアクセスするには、マイグレーションを実行するワークステーションに置いたショートカットを使用します。

Source フォルダ

このフォルダには、Director セットアップによって作成されたマイグレーション ファイル (DirectorSource.dmx) が含まれています。このファイルにはユーザが構成したオプションが格納されます。このマイグレーション ファイルを DMM Options Editor を使用して編集すると、マイグレーション処理をさらにカスタマイズできます。

Destination フォルダ

このフォルダには、Director セットアップによって作成されたマイグレーション ファイル (DirectorDestination.dmx) が含まれています。このファイルにはユーザが構成したオプションが格納されます。このマイグレーション ファイルを DMM Options Editor を使用して編集すると、マイグレーション処理をさらにカスタマイズできます。

Logs

このフォルダはマイグレーションを初めて実行するまで空です。マイグレーションを初めて実行すると、このディレクトリに Director ログが保存されます。ログ ファイル名は、<マイグレーション ディレクトリ>¥DirectorMigration¥Logs¥DirectorSourceLogs_%DNA_Machine_Name%.txt になります。

IEInstaller

Director Migration フォルダを作成したとき、このフォルダは空になっています。コンピュータに Internet Explorer v5.X 以上がインストールされていない場合は、IEInstaller¥IE5Setup.exe をマイグレーションディレクトリの IEInstaller フォルダにコピーします。その後、[スタート]メニューから DMM Options Editor を開き、ソース フォルダおよび宛先フォルダの.dmx ファイルを開き、[Internet Explorer インストーラのパス] オプションを定義します。

ソース マイグレーションの実行

自動マイグレーションを実行する準備が整いました。

マイグレーションを実行するには、以下の手順に従います。

1. このコンピュータ（ソース マシン）で Windows エクスプローラを使用して、Director Migration フォルダに移動します。
2. Director Migration フォルダ内の [ソースの自動実行] ショートカットをダブルクリックします。

マイグレーションが開始され、[マイグレーション ステータス] ページだけが表示されます。

マイグレーションが完了すると、CA DMM が自動的に終了します。

注: 別のコンピュータでソース マイグレーションを実行するには、[ソースの自動実行] ショートカットを対象のコンピュータにコピーしてダブルクリックします。

作成した DNA ファイルの表示

CA DMM によって、ソース マシンの DNA ファイルが作成されました。

DNA ファイルを表示するには、以下の手順に従います。

1. DMM Director でデータ ディレクトリを作成したパスに移動します。構成した自動プロセスを使用して最初に DNA ファイルを生成するときに、DNA Director によってデータ ディレクトリが作成されます。

このディレクトリは、構成で設定したパスに DirectorData という名前で作成されます。

2. マイグレーションからコンピュータ名の付いたフォルダを開きます。
3. DNA ファイルをダブルクリックします。
DMM エクスプローラが開きます。

DMM Explorer

DMM Explorer を使用すると、DNA ファイルを開いて、その内容（すべてのファイル、レジストリ項目、およびマイグレートした値など）を確認できます。

DNA ファイルの内容を表示します。作成した DMM テンプレート内でマイグレーション用に選択したすべての項目は、DNA ファイルに含まれます。

個々のファイル、フォルダ、または設定を DMM Explorer からコンピュータに直接適用するには、以下の手順に従います。

1. システムに適用するファイルまたはフォルダをクリックします。
2. 右クリックして [適用] を選択すると、元の場所に直接適用されます。ファイルまたはフォルダを移動するか名前を変更する場合は、[適用先] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。
ファイルが、DMM Explorer からコンピュータに直接適用されます。
4. DMM Explorer を閉じます

DMM Director ログ

DMM Director によって、自動マイグレーションに関するすべての詳細情報が記録された Director ログも作成されます。

ログを表示するには、以下の手順に従います。

1. Directory Migration フォルダに移動し、Logs サブフォルダをダブルクリックします。

Director ログには、Director Source Log_<マシン名>.txt という名前が付けられています。
2. テキスト ファイルを開き、CA DMM のリターンコードなど、自動マイグレーションの詳細情報を確認します。

デスティネーション マシン

デスティネーションマシンに新しいオペレーティングシステムを再構成してロードした場合は、作成した DNA ファイルを適用できます。

DNA ファイルを適用するには、以下の手順に従います。

1. デスティネーションマシン（この例では、コンピュータ名は変更されていないと仮定しています）で、Windows エクスプローラを使用して、**Director Migration** フォルダに移動します。

2. **Director Migration** フォルダ内の [デスティネーションの自動実行] ショートカットをダブルクリックします。

マイグレーションが開始され、[マイグレーション ステータス] ページが表示されます。

マイグレーションが完了すると、ユーザ インターフェースは自動的に閉じます。

再起動のメッセージ ボックスが開きます。コンピュータの再起動まで 15 秒間待機するので、必要に応じて再起動をキャンセルします。

注: 別のコンピュータでデスティネーションマイグレーションを実行するには、[デスティネーションの自動実行] ショートカットを対象のコンピュータにコピーしてダブルクリックします。

3. **Director Migration** フォルダの **Logs** フォルダにあるログ ファイルを確認します。Director ログには、**Director Destination Log_<マシン名>.txt** という名前が付いています。

テキスト ファイルを開き、CA DMM のリターン コードなど、自動マイグレーションの詳細情報を確認します。

マイグレーション完了

CA DMM と Migration Toolkit を使用したマイグレーションの自動実行が正常に完了しました。

ディスクからディスクのマイグレーションの実行

ディスクからディスクのマイグレーションでは、最小限の作業で、すべての設定とデータをそのままの状態ハードディスクからリストアすることができます。ソースハードディスクは、スレーブディスクとしてホストコンピュータに接続され、古いシステムが OS を実行しているかのように表示できる仮想システムが構成されています。ユーザ設定、システムとデスクトップの設定、アプリケーション設定、およびマイグレートするファイルとフォルダなどの設定を定義できます。

注: ディスクからディスクのマイグレーションは Windows 7 および Windows 8 では機能しません。

ドライブ マッピング情報

ソース ディスクを、ホスト コンピュータと呼ばれる別のコンピュータに接続すると、CA DMM では、[Disk-To-Disk ドライブ マッピング] ページにすべてのオペレーティング システムと（ソース ディスク内の）そのドライブ マップが表示されます。ホスト コンピュータでは、オペレーティング システムがインストールされているドライブも [ソース OS] ドロップダウンリストに表示されます。ソース ディスクがマルチブート ディスクである場合は、[ソース OS] ドロップダウンリストには、オペレーティング システムがインストールされているすべてのドライブが表示されます。そのため、マイグレートするオペレーティング システムを選択する際に役立ちます。

[ソース] カラムにドライブ マッピング情報を指定する際には、以下の点を検討してください。

- ドライブの変更は、要件に応じて行うことができます。[ドライブ マップ] エリアで [ソース] カラムをクリックすると、選択できるすべてのドライブ（C から Z）のリストが表示されます。
- [ソース] カラムから空白（「---」）オプションを選択することによって、OS 以外のドライブをマップしないことを選択できます。ただし、オペレーティング システムがインストールされているドライブに空白オプションを選択することはできません。OS ドライブはマップする必要があります。たとえば、[ソース OS] ドロップダウンリストに WINXP(P) が表示され、ドライブ P がドライブ C にマップされている場合は、ドライブ P に空白オプションを選択することはできません。ドライブ P を他の任意のドライブにマップすることができます。
- CA DMM では、ドライブ マッピングが常に固有になるようにします。既存のドライブを変更するたびに、ドライブ マッピング情報が自動的に交換されます。たとえば、ドライブ P がドライブ C にマップされており、ドライブ Q がドライブ D にマップされている場合に、ドライブ Q をドライブ C にマップすると、ドライブ P は自動的にドライブ C を指すようになります。

また、次のようにコマンドラインを使用して、DMM Options ファイルの [コマンドライン] フィールドでドライブ マッピング情報を設定することもできます。

```
/T C:¥MyTemplate.dtf /D (or /SE) C:¥MyDNA.dna /DD <WINXP/WIN2K/WIN2000/WINVI>(OS ドライブ) <DriveMap>
```

例

/T C:\MyTemplate.dtf /D (or /SE) C:\MyDNA.dna /DD WINXP(P) P:C,Q:D,R:E

注: P は、ソース コンピュータを表すスレーブ ディスクの P ドライブでオペレーティング システムが使用可能であることを示しています。 コマンドライン スイッチおよびコマンドラインの例の詳細については、「リファレンス ガイド」を参照してください。

ディスクからディスクのマイグレーション プロセスのしくみ

ディスクからディスクのマイグレーション プロセスでは、以下の手順に従います。

1. ソース コンピュータからハード ドライブを取り出します。
2. ソース ハード ディスクをスレーブ ディスクとしてホスト コンピュータに接続します。
3. CA DMM を起動して、CA DMM アプリケーション ユーザ インターフェイスで関連するオプションを選択して、ディスクからディスクのマイグレーションを有効にします。

注: ディスクからディスクのマイグレーションを有効にするには、CA DMM アプリケーションを起動する前に、DMM Options ファイルで [Disk To Disk マイグレーション] オプションを選択することもできます。

4. ドライブ、およびマイグレートして DNA または SE (自己解凍プログラム) DNA ファイルを作成する設定を選択します。
5. [Disk-To-Disk ドライブ マッピング] ダイアログ ボックスには、スレーブ ディスクで使用可能なすべてのオペレーティング システムとそのドライブ マップが表示されます。
6. ソース ディスクからユーザ、システム、アプリケーション、およびファイルを選択して、DNA ファイルまたは SE ファイルを作成します。

注: DMM Template Editor で DMM テンプレート ファイルを作成して、ユーザやシステムなどのマイグレートする設定を選択することもできます。

7. DNA または SE DNA ファイルを、ホスト コンピュータなどの任意のコンピュータに適用します。

ディスクからディスクのマイグレーションの実行

ディスクからディスクのマイグレーションは、以下のいずれかのモードを使用して実行できます。

- ユーザ インターフェース
- コマンドライン インターフェース

管理者権限を持つユーザのみが、ホスト コンピュータでこのプロセスを実行できます。

注: Windows 2000 がホスト コンピュータにインストールされている場合は、スレーブ ディスクからマイグレートできるのは Windows 2000 のみです。

ユーザ インターフェースを使用したディスクからディスクのマイグレーションの実行

ユーザ インターフェースでマイグレートするオペレーティング システム ドライブと設定を指定して、ディスクからディスクのマイグレーションを実行することができます。

ユーザ インターフェースを使用したディスクからディスクのマイグレーションの実行

1. ソース ディスクをスレーブ ディスクとしてホスト コンピュータに接続します。
2. [スタート] - [プログラム] - [CA] - [Desktop Migration Manager] を選択して、CA DMM を開きます。

初期画面ページが表示されます。

注: [初期画面を表示しない] チェック ボックスをオンにすることによって、アプリケーションですべての [ようこそ] 画面を無効にすることができます。

3. [次へ] をクリックして、[DMM タスクの選択] ダイアログ ボックスを開きます。

[DMM タスクの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [スレーブ ディスクから DNA ファイルを作成する] チェック ボックスをオンにして、ディスクからディスクのマイグレーションを有効にします。

注: DMM Options ファイルで [Disk To Disk マイグレーション] チェック ボックスをオンにして、ディスクからディスクのマイグレーションを有効にすることもできます。DMM Options ファイルで [Disk To Disk マイグレーション] チェック ボックスをオンにすると、CA DMM アプリケーションで [スレーブ ディスクから DNA ファイルを作成する] チェック ボックスが自動的にオンになります。

5. [作成] をクリックします。

[Disk-To-Disk ドライブ マッピング] ページが表示されます。

6. 状況に応じてドライブ マッピング情報を指定します。スレーブ ディスクにデュアル オペレーティング システムがインストールされている場合は、[ソース OS] ドロップダウン リストから関連するオペレーティング システムを選択できます。また、CA DMM によって生成されたドライブ マップが正しくない場合は、ドライブ マップを変更することもできます。[次へ] をクリックします。

[設定の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。

7. [次へ] をクリックして、DNA ファイルに指定したように、[設定] タブと [デスティネーション] タブに必要な情報を指定します。[マイグレーション] タブの [Start Store] をクリックして、DNA ファイルまたは SE DNA ファイルを作成します。

注: DMM Template Editor で DMM テンプレート ファイルを作成して、DMM テンプレート ファイルに指定した設定を使用することもできます。CA DMM アプリケーションでファイルを開き、設定を確認して、必要な変更を行うことができます。その後、マイグレーションを開始できます。DMM テンプレート ファイルの作成方法の詳細については、DMM Template Editor オンラインヘルプを参照してください。

8. DNA ファイルまたは SE DNA ファイルを、ホスト コンピュータなどの任意のコンピュータに適用します。

テンプレート設定が適用されます。CA DMM の [ログ] タブでアンドゥ ファイルをロードして、ウィザードの指示に従うことによって、ディスクからディスクのマイグレーションを元に戻すことができます。

注: ホスト コンピュータで DMM または SE DNA ファイルを適用するには、最初に CA DMM アプリケーションで [スレーブ ディスクから DNA ファイルを作成する] チェック ボックスをオフにする必要があります。または、[Disk To Disk マイグレーション] チェック ボックスをオンにした場合は、DNA Options ファイルでオフにする必要があります。DNA ファイルの作成、DNA ファイルまたは SE DNA ファイルの適用、および元に戻すオプションの詳細については、CA DMM オンラインヘルプを参照してください。

ユーザ インターフェースを使用したディスクからディスクのマイグレーションの実行

コマンドライン インターフェースを使用して、テンプレート ファイルのパスとドライブ マッピング情報を指定することによって、ディスクからディスクのマイグレーションを実行することができます。

ユーザ インターフェースを使用したディスクからディスクのマイグレーションの実行

1. [スタート] メニューからコマンドラインを開きます。
コマンドライン ウィンドウが表示されます。
2. コマンドをテンプレート ファイルのパスとドライブ マッピング情報と共に入力して、DNA ファイルまたは SE DNA ファイルを作成します。

```
/T C:¥MyTemplate.dtf /D (or /SE) C:¥MyDNA.dna /DD <WINXP/WIN2K/WIN2000/WINVI>(OS  
ドライブ) <DriveMap>
```

例 :

```
/T C:¥MyTemplate.dtf /D (or /SE) C:¥MyDNA.dna /DD WINXP(P) P:C,Q:D,R:E
```

DNA ファイルまたは SE DNA ファイルが作成されます。

3. DNA ファイルまたは SE DNA ファイルのいずれかを、ホスト コンピュータなどの任意のコンピュータに適用します。

注: コマンドライン スイッチとコマンドラインの例の詳細については、「リファレンス ガイド」を参照してください。

第 4 章: DMM Always Current Scheduler の使用

IT 担当者は変更作業が日常的に起こることを認識しています。オペレーティングシステムまたはコンピュータのマイグレーションを実行する時間や費用を削減するために CA DMM を使用することは重要ですが、ユーザがシステムの使用を開始してから 1 日、1 週間、1 年後はどうでしょうか。ユーザは新しいアプリケーションのインストール、設定の変更、アプリケーションのアンインストール、および DNA を変更するその他のタスクを実行します。

競合が発生するようなものをユーザがインストールしたらどうなるでしょうか?あるいは、設定を変更したために、別のアプリケーションが正常に実行されなくなった場合はどうでしょうか?古い設定を簡単に復元するにはどうしたらよいでしょうか?

DMM Always Current Scheduler を使用すれば DNA を管理できます。DNA ファイルを最初に作成後、ユーザは現在の DNA のスナップショット (リビジョン) を取得するか、または DNA ファイルを変更できます。DNA の内容を変更するたびに、CA DMM によって新しいリビジョンが作成されます。問題が発生した場合、ユーザは常に以前のリビジョンに DNA を戻すことができます。

この章では、以下の処理の実行方法について説明します。

- DMM ストレージタスクのスケジュール
- スケジュール済みの DMM タスクの表示
- DMM ストレージタスクの適用

DMM ストレージ タスクのスケジュール

前の章で、DMM Director を使用したテンプレートおよび DNA ファイルの作成について説明しました。このテンプレートには、DNA ファイルに保存するすべてのユーザ、設定、アプリケーション、ファイル、およびフォルダが指定されています。DMM ストレージタスクを作成することにより、指定した時刻にリビジョンを作成することができます。リビジョンには以下の内容が含まれます。

- テンプレートの変更内容
- DNA ファイルに保存するようテンプレートで指定した項目の変更内容（設定など）

何も変更を行っていない場合は、指定した時刻に DMM Always Current Scheduler が実行されたことを示す新規リビジョンが作成されます。

DMM ストレージタスクをスケジュールするには、以下の手順に従います。

1. [スタート]メニューから DMM Always Current Scheduler を起動します。
DMM Always Current Scheduler が開きます。
2. [次へ] をクリックして、ウィザードの手順に従います。

ウィザードでは以下の設定を行います。

- タスクを作成して、格納する DNA を指定する。
- テンプレートの名前、タスクを実行するユーザの名前など、タスクの詳細を指定する。

注: タスクを実行するユーザの名前を指定するとき、CA DMM ではレジストリに設定されているユーザ名が表示されます。ユーザ名（ドメインとパスワードを含む）の情報が正しいことを確認してください。情報が間違っていると、ジョブが実行されません。また、定期的にパスワードを変更する必要がある場合は、このタスクのパスワードも変更する必要があります。パスワードを変更しないと、スケジュールされたタスクは実行できません。

- タスクの実行頻度を指定する。
 - タスクを実行する日時を指定する。
3. タスクの詳細を確認してから、[完了] をクリックします。

タスクの初回実行時に、指定した DNA ファイルが作成されます。スケジュールされているタスクが次に実行されるときに、DNA ファイルのリビジョンが作成されます。

タスクの実行時には、タスクを再スケジュールするかまたはキャンセルするかを選択できるダイアログ ボックスが表示されます。再スケジュールを選択した場合は、DMM Always Current Scheduler が開いて別の時間を選択できます。キャンセルを選択した場合、スケジュールされている次の時間までタスクは実行されません。

注: DMM Always Current Scheduler によって、設定を含む XML ファイル (拡張子は .dmx) が作成されます。デフォルトでは、このファイルはマイドキュメントディレクトリに保存されます。このファイルは DMM Options Editor で開いて、必要に応じて変更することができます。

スケジュール済みの DMM タスクの表示

DMM Always Current Scheduler で作成したスケジュール済みタスクを変更するには

1. [スタート] メニューから Windows スケジューラを開きます。

Windows の [タスク] ダイアログ ボックスが表示され、スケジュール済みの DMM タスクが表示されます。
2. スケジュール設定を変更するタスクをダブルクリックします。

Windows のスケジューラが開き、スケジュール済みのタスクを変更できます。
3. 変更が完了したら [OK] をクリックします。

タスクへの変更内容が保存されます。

ストレージから DNA を適用

PC に保存済みの DNA ファイルを適用するには

1. [スタート] メニューから、[ストレージから DNA を適用] コマンドを実行します。

CA DMM ウィザードの [DNA ファイル オプション] ページが表示されます。

2. 以下のオプションから選択します。

編集

適用する設定を選択します。CA DMM ウィザードを使用して、適用する設定、ファイルとフォルダ、またはフィルタを個別に選択できます。

デスティネーション

[デスティネーション] タブが開きます。DNA ファイルに格納されているすべてを適用できます。必要に応じて、設定、ファイルとフォルダ、またはフィルタのリダイレクトも定義できます。

[リビジョン]

別の DMM リビジョンを選択します。前のバージョンの DNA ファイルを選択し、適用する設定、ファイルとフォルダ、またはフィルタを個別に選択して、特定の時点までロールバックできます。

3. CA DMM ウィザードの残りの手順に従って、保存済み DNA の適用を完了します。

注: /RD パラメータを使用して、リビジョンを適用できます。コマンドラインパラメータおよび使用例の詳細については、「リファレンスガイド」を参照してください。

付録 A: Software Delivery を使用した CA DMM のインストール

CA Technologies が提供する他の製品と同様、CA DMM には、定義済みですぐに展開できる **Software Delivery** パッケージが同梱されています。

Software Delivery は、社内のターゲットシステムでソフトウェアをライフサイクルにわたって作成、配布、インストール、および管理するための柔軟性の高いソリューションです。**Software Delivery** がサポートするパッケージの種類は以下のとおりです。

- MSI パッケージ (Microsoft のインストーラ)
- Palm、Windows CE、および Nokia パッケージ
- SXP パッケージ (Windows)
- PIF パッケージ (UNIX)
- PKG パッケージ (UNIX SVR4 pkgadd)
- RPM パッケージ (Linux Red Hat パッケージ マネージャ)
- **Software Delivery** 汎用パッケージ

使用可能なパッケージの種類は以下のとおりです。

- **Migration Toolkit** を含む CA DMM のフルバージョン

すべてのパッケージは、通常、アンアテンドインストールモードで実行します。**Software Delivery** でパッケージされた **CA Desktop Migration Manager** コンポーネントには、**Install** という **Software Delivery** インストールプロシージャが用意されています。**Install** を実行すると、製品のフルインストールが実行されます。

注: これ以降のセクションおよび手順は、システム管理者のみを対象にしたものです。それ以外のユーザは、**Software Delivery** のマニュアルを参照して、**SD** エクスプローラを使用したパッケージの作成、登録、および展開の詳細について理解しておいてください。

基本的な手順

Software Delivery を使用して CA DMM をインストールする際の基本的な手順は以下のとおりです。

1. Software Delivery ソフトウェア パッケージを登録します。
2. パッケージを展開してインストールするための Software Delivery ジョブを作成します。

次のセクションで、それぞれの手順について説明します。

パッケージの自動登録

SDRegister ツールを使用すると、定義済みの Software Delivery パッケージをソフトウェア ライブラリに自動的に登録できます。このツールを使用するには、以下の手順に従います。

1. CA DMM CD の Packages ディレクトリに移動します。
2. ¥Packages¥CA DMM ディレクトリを見つけます。このディレクトリには、エージェント パッケージをライブラリに登録するために必要なすべての情報が格納されています。
3. ¥Packages¥CA DMM ディレクトリを開き、SDRegister.exe をダブルクリックして、登録ウィザードを起動します。
4. [登録する製品の選択] ページで、登録する定義済みのパッケージを選択して [次へ] をクリックします。
5. [Software Delivery ユーザの詳細] ページで、ユーザ名、ドメイン、およびパスワードを入力します。 [次へ] をクリックします。

注: すでに Software Delivery にソフトウェアを登録する権限がある場合は、ユーザの詳細を指定する必要はありません。

[製品の登録] ページが表示されます。ウィザードは、適切な .INI ファイルを読み取り、Software Delivery パッケージの内容を作成するために CD からコピーする必要があるファイルを決め、ファイルのコピーを開始します。

6. ファイルのコピーが完了し、登録処理が終了したことを示すメッセージが表示されたら、[完了] をクリックします。

注: パッケージを手動で登録する場合は、この章で後述する「パッケージの手動登録」を参照してください。

ジョブの作成

サイト固有の情報を含むプロシージャを設定したら、SD エクスプローラでそのプロシージャをターゲットにドラッグして、CA DMM のインストールを開始します。

ソフトウェアパッケージとジョブの作成の詳細については、Software Delivery のマニュアルを参照してください。

パッケージの手動登録

注: Software Delivery パッケージは、SDRegister ツール（すべてのファイルを自動的にコピーする）または SD エクスプローラを使用して登録することをお勧めします。

Software Delivery パッケージを手動で登録するには SD エクスプローラアプリケーションを使用しますが、まず CD から必要なファイルを一時的な場所にコピーしてください。コピーするファイルとディレクトリは以下のとおりです。

パッケージ	ステータス
¥DDNAInst	必須
¥Packages¥Unicenter Desktop DNA¥DDNAInst¥DNAInstall.dms	必須
¥Packages¥Unicenter Desktop DNA¥reginfo	必須

SDRegister を使用した自動登録について

SDRegister ツールは、Software Delivery で登録可能なソフトウェアパッケージをディレクトリ ツリー内でスキャンします。パッケージは、各パッケージの内容の詳細を記述した .INI ファイルが存在するかどうかによって特定されます。パッケージは一時領域に作成され、sdcmd によって Software Delivery に登録されます。

前提条件

Software Delivery Enterprise、Local、Workgroup Server または Admin Console をインストールする必要があります。

また、Software Delivery でソフトウェアを登録する権限があるアカウントへのアクセス権を持っている必要があります。

コマンド

コマンドの形式は以下のとおりです。

```
SDRegister [-u] [-n] [-d search path] [-t temporary directory] [-l logfile path]
```

各項目は以下のとおりです。

-u

アンアテンドモードを指定します。SDRegister は、検出したすべてのパッケージを自動的に登録しようと試みます。ユーザの詳細データのは要求されないので、SDRegister を実行する場合は、Software Delivery Software Library にソフトウェアを登録する権限が必要です。

-n

sdcmd を実行せずに すべての一時ディレクトリを作成してコピーし、終了します。正しい登録コマンドはログに書き込まれます。

-d

パッケージ検索の開始パスを指定します。デフォルトでは、現在の作業ディレクトリから検索が開始されます。

-t

ファイルのコピー先となる代替の一時ディレクトリの場所を指定します。デフォルトでは、CA_APPSW¥SDRegister¥temp が使用されます。CA_APPSW は、通常は c:¥ca_appsww になります。複数のパッケージを作成するときに -n オプションを指定すると、一時ディレクトリにパッケージごとのディレクトリが作成されます。このディレクトリにはパッケージの名前が付けられます (c:¥ca_appsww¥SDRegister¥temp¥prod 1 など)。

-l

SDRegister が情報を書き込む代替ログ ファイルを指定します。デフォルトでは、CA_APPSW¥SDRegister¥sdregddmmhmm.log になります。

注: 共有権限の問題を避けるために、sdconf を使用して NOS を None に設定してください。